

無藝莊「心の俳句展」選句 選者 瀬在光本

○特撰

正座して夏炉もてなす火代番 藤野智弘

選評：信州の高原では夏でも朝晩は少し暖が欲しい日があり、その火番が正座をして火を守っている。小津映画の一場面を想起させられる。

○秀選

こんなときあったようだ彼岸花 田島征也

選評：彼岸花を見て小津映画想起してか、花の持つ魔力からか夫婦で「そういうえばこんな時もあったなあ」としみじみ昔を懐かしんで詠んだとか。

テーブルを伸ばし賑はう夏館 中村香子

選評：この日は、家族、友人がたくさん集まり楽しいひとときとなった。「テーブルを伸ばし」の表現が想定外の人が集まったのだらうと思わせる。

夏草や一辺倒の牛の声 飯野佳代子

選評：草原に牛の声がのんびりのどかに聞こえる。何度も同じ調子で鳴く様を「一辺倒」と表現したところが面白い。

特別賞

やってきた夏の最後にオズハウス 中村倭悠

選評…作者は小学生。コロナ下の中夏休みの終わりになって

漸く待望の蓼科にやってこれた喜びが良く表現された。

無藝荘をオズハウスと詠んだセンスが良い。

佳作

小津旧居夏炉に香る桜櫓 川上なみ子

コスモスの隣りでそばを二人前 山下英幸

玻璃ごしの山荘の秋揺れてをり 川上純一

夏炉端妹嫁ぐ父をふと 西村美枝

夏近し緑深まる小津歩道 森 浩二

蓼科の青葉の草木に「またくるね」 田島敏勝

映画見て小津の無藝荘初夏の風 島田玉雄

酒愛し作れし映画の晩春の跡 李 晶一

蝶の翅ここよと舞ひて戦跡 川崎彰典

車山山谷ありの恋の道 増澤 蓮